
ハンティング

山野つつじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ハンティング

【Nコード】
N6520Y

【作者名】
山野つつじ

【あらすじ】
週末の二日間、俺はハンティングにいったんだけど
…。

（前書き）

アメリカ南部での鹿狩りの様子を交えてストーリーを進めました。
雰囲気は少しでも感じて頂ければ幸いです。

俺は週末の土曜日に、一人でハンティングに行つたんだ。

土日が休みだから、今週は土曜と日曜日に行こうって決めてたのさ。

ハンティングは獲つたら獲つたで、食料としても重宝するし、肉の半分くらいはホームレスに寄付してるからさ、嫌いっていう人もいるんだけどちょっとは世の中の為にはなってるんだぜ。

それに、ハンティングをすることで増えすぎる鹿の数の調整にもなってるんだ。

そういつてもさ、動物を殺すのに躊躇いがあるって人がいるのさ。こればかりはさ、好きか嫌いかって問題もあるから仕方ないんだよな。

さてと、今日はちょっと小高い丘の上で鹿を待機してみるか。

昨年はここで鹿の群れを見たから、ひよっとすると奴らはまたここに現れるかな。

そうそう、ハンティングってさ、単に撃つだけみたいなイメージあるだろ？

ところがさ、鹿を待つ間の時間って、それはそれですごくいいものがあるんだよ。

時を待つ間の「考えを巡らす時間」っていうのかなあ。

昔の出来事をあーでもないこーでもないって思い出したり、家族のことを改めて考えてみたりしてさ。

呼吸をすれば自然の空気が体を満たして、耳には人間が昔から聞いてきた自然の音が聞こえるわけだ。ここじゃ人間も自然の一つって、実感できるんだよなあ。

おっと、鹿が現れたぞ。

最初に来たのはメスが二頭、続いてオスか…

メスはドウっていうんだけどさ、通常みんなオスのバックと呼ば

れる方を撃つのさ。

なぜかっていうと、バックの方が体が大きいから肉が多くとれる
だろ？

しかも、バックには立派な角があるわけ。

器用な人の中には、バックの立派な角を使ってインテリアを作っ
たりする人もいるんだよ。

しーっ、狙いを肩の後ろ側と心臓の位置辺りに合わせて、静かに
息をとめる。

撃つぞ。

ダーン！というライフルの音が、雑木林に大きく響いた。

くそっ、狙いがちよっと外れちゃった。

バックは大きくジャンプして、林の中に消えていった。

狙いを外しちまうと、鹿はかなり遠い距離までいつちまうんだ。

こりゃあ、死体を捜すのにはちよっと歩かなきゃなんねえなあ。

俺は、枯葉を踏みしめながら、鹿が逃げていった方向に歩いてい
った。

林の中は静かで、音といったら自然が作る風の音や小川の音。

ただ歩いているだけなのに、自分が野生に返ったように感じるも
んだ。

そつえばさ、死体を捜すのにいい目印になる鳥って知ってるか？

バザードっていうんだけどさ、まあハゲワシっていった方がわか
り易いか。

あいつらはさ、死肉とか腐肉を食らうんだよ。

だから奴らは死体があつたりすると、そこを中心にして円を描い
て飛び回るんだ。

魚でも鹿でも、とにかく奴らは「食えるぞ」って思うとぐるぐる
そこを中心に飛び回るのさ。

俺のいつてることわかる？

要はさ、今みたいに急所を外して自分の撃った鹿を見つけること
ができないとしても、バザードが見つけてくれるってわけ。

まあ、奴らに食われる前に見つけないとっていう時間制限があるんだけどな。

一時間程歩いたところで、俺は運よく撃ったバックを見つけることができた。

見つけたバックは、後ろ足の部分をロープで縛り、車まで引きずっていった。

ピックアップトラックの荷台に乗せて、肉屋まで運んでいった。

翌日、俺はまた昨日と同じ場所にきて、鹿を待っていた。

昨日一頭仕留めたというのもあって、今日は絶対というチャンスがなくてもいいと思ってたんだ。

ただ自然の中で、風が気を揺らす音を聞いたり、たまにちよろつと見かけるアライグマを見ていたりして楽しんでたんだ。

ふつと空を見上げると、木漏れ日と一緒にバザードが飛んでいるのが見えたんだよ。

何羽くらい飛んでるんだろう……って見てたら、五羽くらいが円を描いてるわけ。

これは、誰か撃った鹿がそのまんまなのか？って思ったんだ。

たえそれが鹿じゃなくても、いい話のネタにはなるだろう？

たださ、林の中にいるもんだから、円の中心っていうのがよくわからなくて、とりあえずバザードが飛んでるだろう周辺をうろろ歩いてみたんだよ。

二時間くらいうろろと歩き回ったんだけど、何も見つからないんだよね。

ちえつ、期待ハズレだ。

それでも今年は、でかいバックを一頭とっただけでもめつけもんだ。

俺はそう思いながら雑木林を抜けて、国道沿いに止めて置いたトラックに戻った。

トラックの後部座席にあるライフル掛けにライフルをかけて、ト

ラックに乗る前に大きな伸びをした。

両手を大きく広げ、空に思い切り伸ばし深呼吸した。

その時、わずかに俺の視線にバザードが映った。

空にバザードが、飛んでいやがる。

五羽くらいのバザードが、俺の頭上を…。

俺を中心に、円を描いて飛んでいやがる。

くそっ、ハンティングをしていたのは俺だけじゃなかったのか…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6520y/>

ハンティング

2011年11月20日05時42分発行